

「音楽アウトリーチ」による 地域学校現場との互惠関係の構築

最終更新日：2015年10月8日

【プロジェクト代表者】
音楽教育講座
准教授
原 尚志

キーワード ・ アウトリーチ

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

宗像・福津地域の小学校現場で求められている音楽アウトリーチ活動を通して、本学教員及び学生の人的資源を最大限活用しながら、1)児童の音楽経験の拡充・深化を目指すこと、2)本学学生の音楽教育実践力の育成を図ること等を目的として行いました。ここでは、宗像地区の小学校において、年間3回音楽アウトリーチ活動として出張演奏会を計画し、それらを企画・立案・運営するためのサイクルを確立するとともに、それぞれの学校教育現場での取り組みで得られた成果と課題について省察しながら、学校現場のニーズにより効果的に対応できる音楽アウトリーチ活動の検討を通して、大学と学校現場との有機的な互惠関係を構築することを試みました。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

私達の「音楽アウトリーチ」の活動は、地域の音楽教育や芸術文化振興の活性化に有意義に機能するものであります。音楽教育に限らず芸術教育の一環として「音楽アウトリーチ」を行うことによって、学習指導要領にある・音楽を愛好する心情を育てること、・音楽に対する感性を育むこと、・音楽活動の基礎的な能力を培うこと、これら3項目に対して効果的な成果を見出すことができます。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

・平成26年度学長裁量経費研究推進
支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

福岡教育大学音楽教育講座

教授 木村 次宏 統括

准教授 原 尚志（企画・運営）演奏

准教授 山中和佳子（企画・運営）教育